

障害当事者の立場から 「地域で共に生きるために」

入場無料
各回：100名
(先着順)

「障害」と聞くとどのようなイメージを持たれますか。「困っている人」と先入観をもってしまうかもしれません。障害があまり身近でない人たちが「困っている人」などと先入観で特別視せず、社会には様々な人が生活していることを互いに認め合い、それぞれが暮らしやすい環境を作っていくことが望まれます。しかし、地域共生社会の実現が進められる今日、現実の社会生活においては、障害について無自覚に差別・偏見が生じることがあり、心のバリアフリーの理解が必要になります。その意味を知り、その気づきを活かして、今回は障害当事者やその家族等のシンポジストの皆さんと共に、「地域で共に生きていくこと」を考えます。

① 9月24日(土)
13:30～15:30

② 10月15日(土)
会場：十文字学園女子大学

『共に生きられるよう
知ることと学ぶこと』

『地域で暮らしていくためには』

<シンポジスト>

吉田 莉瑚 氏

(文芸文化学科卒業生)

上野 優一 氏 (DET埼玉代表)

須田 正子 氏

(あったかウェルねっと事務局長)

<シンポジスト>

木村 俊彦 氏

(新座市北部第二地区地域福祉
推進協議会副会長)

百石 美貴 氏

(NPO法人はなみずき代表理事)

川井 幸恵 氏 (チームちーこと)

コーディネーター

佐藤 陽 (人間福祉学科教授) 中西 郁 (児童教育学科教授) 人見 優子 (人間福祉学科准教授)

共催 人間生活学部 人間福祉学科、新座市内大学公開講座
埼玉まなびいプロジェクト協賛事業

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインでの開催に変更する場合がございます。

申し込み方法 ① 8月24日(水) ② 9月15日(木)から申込開始

1回のみ参加も可能です。各回ごとに電話または専用フォームからお申し込みください。

【専用フォーム】 右記QRコードにアクセスのうえ、お申し込みください。

「受付完了」の返信メールが届いた時点で「受付完了」となります。

【電話】 地域連携推進課 048-477-0958 (直通)

受付時間 平日9:00～16:00

〒352-8510 埼玉県新座市菅沢2-1-28 JR武蔵野線 新座駅から徒歩8分



シンポジスト紹介

＜9月24日＞差別解消法における合理的配慮義務化や、「心のバリアフリー」が学校教育に導入されたことを踏まえ、当事者を主体とする学校教育、福祉教育の実際を知り、障害の相互理解を促進し、共に地域で生きられるよう学ぶあり方について考えます。

吉田 莉瑚 氏 (文芸文化学科卒業生)

2022年3月卒業。聴覚障害があり、在学中に「自分のこと(聴覚障害)について知ってほしい」と相談を受け、施設ボランティアに参加する際の障害理解や、福祉や教育の従事者になる学生たちの障害理解のきっかけとなるような機会を作れないかと、ともに講座を企画し、2020年夏にボランティアセンターで「聴覚障害について学ぼう」という2回講座を実施した。現在は、システムエンジニアとして勤務している。

上野 優一 氏 (DET埼玉代表)

事故で頸髄を損傷し、四肢麻痺となり電動車椅子を使用している。DETは、障害者の社会参加や多様性に基づいた共生社会を創ることを目的とした、障害者差別解消法を推進するための障害平等研修であり、埼玉県「豊かな地域福祉づくり推進事業」の助成を受け、障害者自身がファシリテーターとなってワークショップ型の研修を、議員、行政、教職員、福祉従事者、民生委員・児童委員、小学生から大学生までの生徒・学生、一般市民などを対象に幅広く実施している。

須田 正子 氏 (あったかウェルねっと事務局長)

「あったかウェルねっと」は、埼玉県社会福祉協議会の「埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員養成研修」の修了生のネットワークとして、教員、社会福祉協議会職員、ボランティア、障害を持った人など、あらゆる立場の人たちも一人の地域の主人公として、職業・立場や地域を超え、福祉の心の育成のために県内の学校や地域で福祉教育やボランティア学習の推進に向けた活動を重ねられるよう2001年に設立された。2013年より事務局長を務めている。

＜10月15日＞無自覚な排除をされかねない障害のある人たちが、地域で暮らしていくためには何が必要か、地域の中で重度の障害のある双子を育てる母親、学生ボランティアをきっかけに双子の生活を支えている方、共生する地域づくりを行っている方たちと共に考えます。

木村 俊彦 氏 (新座市北部第二地区地域福祉推進協議会副会長)

養護学校の教員をしながら、地域で「『障害』者も『健常』者も地域で共に生きよう」をスローガンに障害者団体を立ち上げ、活動を開始。教員退職後は、新座市の地域福祉コーディネーターや市議会議員を経て、現在も住民主体の「支えあいを支えるシステムづくり」に奔走している。

百石 美貴 氏 (NPO法人はなみずき代表理事)

重度の障害のある双子の娘たちが地域で自立生活できるよう奮闘しながら、地域との関わりや子どもたちを支えるネットワークをつくる。現在は起業し、地域の担い手として様々な活動に取り組んでいる。

川井 幸恵 氏 (チームちーこと)

大学入学時に地方より新座に移住。大学では福祉を学び、ボランティア活動を通して北二の取り組みに参加し、百石親子や地域の様々な世代の方たちと出会う。卒業後は、地域で働き、交流を続けている。

＜会場アクセス＞

